

ほっかいどう N I E 通信



Newspaper in Education 教育に新聞を

発行 北海道 N I E 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

わがまち新聞コンクール

道内勢3年連続全国一

鹿路中「しらぬか」最優秀

N I E 週間(11月5-11日)の関連行事として全国の小中高校生から作品を募集していた第3回「わがまち新聞コンクール」で、白糠町鹿路中3年、6人による作品「しらぬか」II写真IIが第1位に当たる最優秀賞に輝いた。同賞は第1回から北海道の作品が受賞しており、3年連続の快挙となった。表彰式は11月10日東京のプレスセンターで行われる。

佳作2点上磯中に団体賞

また、幕別町糠内小の5、6年6人の作品「山」のいも新聞」と昨年最優秀賞だった夕張市清水沢中2年の小野真如月さん

と島谷祐希さんの作品「果実の寶石」赤いダイヤ」が佳作に選ばれた。レベルの高い作品6点を出品した北斗市上磯中は

団体賞(全国12校)を獲得した。審査で「しらぬか」は「白糠の人々の熱意と郷土愛が伝わってくるだけでなく、故郷の姿を誇らしい気持ちで素直に表現している。良く取材され

近年、国民の活字離れが話題となっているが、今やネット小説をケータイで読むことが若者のトレンドでもあるらしい。読書の形態も随分変わったものである。

私は勝手に「誰でも新聞は毎日読むものだ」という固定観念を持っていて。しかし、4、5年前、私が学校現場にいた時の話である。図工や書写(毛筆)の授業の前日に、「明日(下)に敷く」新聞紙を忘れずに!」と言うと、「うちには新聞をとっていません」と答える子がいた。しかも一人ではなかった。経済的には普通の家庭の子

釧路発の新たな実践期待



だったので、ちょっと驚いた記憶がある。「家の人も新聞読まないの?」と聞いてみると、「だって、テレ

ビ番組の雑誌買ってるからいいの」という答えが返ってきた。先日、「第6回 N I E 釧

釧路市教委指導主事 本川 敬一

路セミナー」に参加させていただいた。新聞を社会科の教材に活用したり、中学生のかべ新聞づくりの取り組みなど、各学校での N I E 実践の発表をお聞きした。

「N I E」というと、どうも敷居が高く、また「N I E」という用語を知らない先生方も少なくないのではないだろうか。

しかし、社会科や国語科をはじめとする各教科や、道徳の時間を活用したり、かべ新聞をはじめ、総合的な学習の時間など、総合的な発表や児童会・生徒会活動などで、子どもたちが

「新聞」を作製することは意外と多く、見出しのつけ方や割り付けの仕方など、実際の新聞を参考にしている結構活用している先生は多いはずである。今後は、もっと気軽に普段の実践が交流されることを望みたい。

今回、日本製紙釧路工場に隣接して、北海道新聞社の新工場が竣工された。これで、紙の生産から新聞の完成まで一連の見学が可能になったようだ。子どもたちももっと新聞に関心をもち、N I E にかかわる釧路発の新たな実践が生まれてくることを期待したい。



食が白糠を救う
白糠が世界へ届く
我が町 日曜
を満喫できる店
食の集大成

川中3年
グループ
「清流」
▽特別賞
町上土幌
高「蒼穹」
▽団体賞
北斗市
上磯中

た記事と統一感のある紙面に見事なチームワークが光る。レイアウトも美しい」と高く評価された。同コンクールは、日本新聞教育文化財団が地域の人物、話題などを題材にして個人や学校などで作った作品を募集。今回は28都道府県から2877点の応募があった。道内では70点(昨年122点)の応募があり、優秀作品は全国審査に先

立つて次の通り道内表彰された。(敬称略)

▽最優秀賞 白糠町鹿路中3年グループ「しらぬか」
▽優秀賞 幕別町糠内小5、6年グループ「山のいも新聞」
夕張市清水沢中2年小野真如月、島谷祐希「果実の宝石」
赤いダイヤ」
足寄町芽登小5年長野えみ「芽登新聞」
室蘭市日新小6年水島勘登、鏑鍋龍也「ボルタ人形新聞」
帯広市清川中3年グループ
「清流」
▽特別賞
町上土幌
高「蒼穹」
▽団体賞
北斗市
上磯中

心の復活

猛暑が去り落ち着いた季節がやってきた。学校では学校祭・合唱コンクールが花盛り。影を潜めている「主

張発表会」かべ新聞コンクール」がしっかりと継承されていた▼「青少年の主張」全道大会、「白石区中学生主張発表会」に参加した。発表した表題には「心」の問題が多かった。白石区の発表会で最優秀賞の幌東中3年・玉置悠里子さん、障害者の出会いと体験からの発表に「点字ブロックなどの物質的な設備も必要だが、人と人との心の気遣いやぬくもりが感じられる心のバリアフリーが大切」と障害者の立場に立って発表し、観客は感動の拍手▼年金記録の不始末、白い恋人や赤福など賞味期限切れの事件、かつて日本人は「卑劣や不正」は「恥ずべき行為」という嫌悪感を持っていたが今は人が見ていなければ分からなければ、何をしても良いという大人社会の風潮に、子供たちは「日本人の心」の復活と人間関係の大切さを叫んだ▼第3回「わがまち新聞コンクール」で白糠町鹿路中の新聞「しらぬか」が最優秀賞を受賞。北海道は三年連続の大賞受賞で、名実ともに新聞王国▼秋は実りの多い時期、冬將軍の足音が少し聞こえてきた。(高)

3地区でNIEセミナー 松山は初

第5回NIE北見・オホーツク、第1回NIE江差・松山、第2回苫小牧・日高の各地区セミナーが開かれ、NIEに取り組み先生たちは新聞の活用例や新聞づくりの取り組みを発表した。

「死刑制度」で感想文

●北見



9月15日に北海道新聞北見支社で開催、約20人が参加した。実践発表で、網走市白鳥台小の菅原巧教諭は5年の国語科の単元「情報ノート」などで新聞を教材にした結果「子供たちの学習に対する興味・関心を高められた」と述べた。

社説読み意見まとめる

●江差



10月13日に江差町役場で開かれ、松山地方で初のNIEセミナーとあつて松山南部四町小中学校から約30人が出席した。実践発表では、江差中の山下尚宏教諭Ⅱ写真Ⅱが1、3年の国語で、新聞の「4コマ漫画」のせりふを消して自由に会話を作らせたり、社説を読んで自分の考えを書く授業を報告。「社説は1年には難しいが、回数を重ねることで苦手な説明

小学低学年で新聞作り

●苫小牧



10月27日、北海道新聞苫小牧支社で開催、約20人の富岡賢晃教諭は、2年の学習新聞作りを指導しているが、新聞作りには学習を深める効果があると実感したという。浦河第一中の神成浩教頭は、「新聞作りを通して生徒たちは身近な環境から課題を見つけ、自分なりに考えて表現する能力を身につけている」と指摘した。浦河高の望月静華教諭は、全道高校サッカー選手権大会で3位となった

札幌の77小学校に5日間新聞を提供

NIE週間

11月の「NIE週間」にちなみ、12日から16日までの5日間、朝日、毎日、読売、日経、北海道の5紙を札幌市内の小学校に届け、授業に役立ててもらうことになった。日本新聞教育文化財団の呼びかけに応じ、北海道NIE推進協議会が北海道地区新聞公正取引協議会(委員長・川西稔北海道新聞販売局長)に協力を求めたところ賛同を得られたため、初めて実施する。

新聞読み比べ視野広く

字離れは、とても大きな壁数が増してきてきた。となる。毎朝、各班ごとに新聞の記事を選び、帰りの会で「今日の気になるニュース」を発表すること



功 奈良崎 延峰 美

実践に手を挙げた。しかし、思ったようにはいかない。子どもたちの活

読み始めの頃に比べると変化が表れてきている。ただ、実践校に対する各新聞の提供は短期間で終わる。そのままにしておけば、また子どもたちの新聞への関心は薄らいでいくだろう。この取り組みを継続し、子どもたちが新聞を読み比べ、広い視野を持つことが出来るようになるには、もう少し時間が必要だ。そのためにも、子どもたちの新聞に対する取り組みが途切れることのないよう、家庭と連携したり、他の方法を模索していかねければならない。本当の意味でここからが出発点だ。

い勉強になった、と述べた。富川高の徳富圭教諭は今年3月まで在職した留辺蘂高校での取り組みを説明。苫小牧西高の浦川雅智教諭は、政治経済の授業で、表現力を磨き、社会への関心を高める記事の活用例を報告し、5段階に分けた取り組み内容を紹介した。

句作や社説…国語に新聞活用

広い年齢幅教材に最適



岩見沢・医師会付属 看護高等専修学校

道内の専修学校で初めて本年度からNIE実践校に認定された岩見沢市医師会付属看護高等専修学校(生徒79人)では、国語の授業で新聞が活用されている。「年齢幅が広い生徒たちを教えるには、新聞は良い教科書」と、意欲的に取り組む清藤眞智子講師の授業をレポートする。

(北海道新聞NIE推進センター委員 小田原賢二)

授業は1年生42人のクラス。年齢幅は15〜41歳と広く、平均年齢22歳。中学卒業で入学した女生徒からOL、大卒のサラリーマン経験者などで、41歳は主婦。医療・看護の現場では、欠ける看護師が増えている

現場で必要な表現力磨く

実践校
レポート

という。

このため、同校では昨年、岩見沢市清園中を定年退職した清藤さんに国語講師を委嘱した。清藤さんは、国語教師として中学校でNIEの実践に取り組んできた。同校では8月下旬から来年5月下旬まで、隔週2時間、清藤講師(白衣)に質問し、句作に励む生徒たち

年間30時間を教えている。見学したのは9月下旬。俳句の作り方の学習だが、最初10分間は想像力、豊かな心を養うために読書、次いで漢字テスト。そのあと生徒たちは新聞の投稿欄に掲載されている俳句を鑑賞し、胸に響いた句を書き出した。五感や想像力を働かせて感じ取ったことをワークシートに記入し一人3句を創作。季語を辞書で調べたり、指を折りながら楽しそうに句作に励んだ。作品は新聞に投稿した。授業では、今後短歌の作り方、社説の読み方、小論文の書き方などを学ぶが、ほとんどの授業で新聞を教材に使う。

情報の多さに驚き 3小学校が公開授業



社会科教研函館大会

第62回北海道社会科教研究大会函館市昭和小が10月19日、函館市昭和小に全道から小中学校の社会科教諭約470人が集まって開かれ、函館市と北斗市の3小学校5年3クラスの新聞を使った公開授業が行われた。

と、生徒は授業に身が入らない。函館では、情報を得る手段として新聞のウエートが高いことからテーマに取り上げた。上磯小の子供たちは、朝刊を一枚の紙につなぐと教室の半分以上長くなり、四百字詰め原稿用紙で約500枚分の情報が掲載されているように驚き、新聞がどのようにして出来るかを学び新聞社で働く人に関心を持った。昭和小のクラスでは、取材や記事作りを体験し新聞記者の仕事の難しさを知った。

皆で協力見出し付け

小3授業に効果再確認

生徒たちには「新聞をじっくり読むと、表現の仕方がよくわかるようになった」と好評。閲覧コーナーで実践校に提供

くわしく調べよう。見出しのつけ方を確認したあと、各グループの壁新聞の見出しを相互評価し、その後、自分たちの見出しを考えて制作する。子どもたちは緊張しながらも楽しそうにより良い見出しについて話し合った。

水見教諭は「みんなで考えあったり、一緒に一つのものを作る楽しさを感じさせていきたい」と述べた。「新聞づくりは仲間づくり」をまさに追求する実践であった。

その後、新聞づくり講習会が行われ、講師の村宏喜・清水町御影中教頭が、前任校の鹿追中での実践などをもとに、新聞づくりで期待される教育効果や、生徒の組織化・新聞発行までの流れを丁寧に紹介した。

学校が多忙化し、教師も子どもも新聞を作るのが難しくなってきた。どのようにならぬか、中に取り組みむかが課題である。参加者たちは、子どもたちの生き生きと楽しそうに取り組む姿を見て、新聞づくりの学習効果を再確認した。

(森田昌宏・北海道十勝新聞教育研究会事務局 長)

教師の卵よ NIEを学べ

大学に講座常設

初任者研修でも実施

新聞作りや指導案

NIE講座を設けているのは上越教育大と新潟大教育人間科学部。同養護教諭特別別科。上越教育大は2年の選抜で、一昨年始まり、新聞づくりの主眼が置かれている。今年は14人の学生がグループごとに新聞を作り、その内容が新潟日報のNIEページに3回にわたって連載された。

また、新潟大人間科学部では、今年から講座(後期選択)を開設、新聞活用教育を取り入れた指導案づくりを教えている。大学側は「指導案作成は重要なので、来年は必修にしたい」と話している。同部養護教諭特別別科(49人)では、「保健便り」の作成に新聞づくりのノウハウを生かすため、新聞づくりを目的とした「新聞活用教育実践法講義」を実施、学生たちの関

心も高い。また、3年前から県と新潟市の教員初任者と新



研修でNIE講座を実施している。新人教員たちは、新潟日報社の担当者らからNIEの

利点を学んだあと、小・中学校で新聞活用の授業に取り組み教師たちから実践内容の説明を受けている。

は進展しない。県内のNIE実践校は最低年1回公開授業を実施し、校内でのNIE研修に努めてもらう。実践2年目では、近隣の学校にもNIEを普及させるため、各校の教員を集めて研究会を実施している。昨年11月の長岡市立黒条小での研究会には90人もの教員が参加、関心が高かった。

活字離れに危機感

同社や県協議会が大學生や新人教員たちを対象にNIEの普及に意欲的に取り組み出したのは、県内の大学生の活字離れ、新聞離れが深刻になってきている。初任者研修の調査では、新聞を購読している教師は小学校で10%、中学校で20%しかない。教員が新聞を毎日読み「新聞は面白く、教材として役立つ」という意識を持ってもらわないと、NIE

10日に岩見沢・空知セミナー

当協議会主催の第4回岩見沢・空知セミナーが11月10日(土)午後1時半から、北海道新聞岩見沢総局(岩見沢市6条西9丁目)で開かれる。実践発表者は次の通り。問い合わせは協議会事務局(☎011・210・5802)へ。

▽実践発表者 深川市 一巳小・鈴木拓教諭 美唄市峰延小・奈良崎功教諭 新十津川町新十津川中・小林宏司教諭 沼田高・西村直子教諭 岩見沢市医師会付属看護高等専修学校・清藤眞智子講師

顧問と副会長が交代

札幌市教委の7月の人事異動に伴い、当協議会顧問は松平英明氏から教育長・奥岡文夫氏に、副会長は北原敬文氏から学校教育部長・西村正氏に代わった。



山鼻南小で22日 NIE研究大会

第12回北海道NIE研究大会が11月22日、札幌市山鼻南小(中央区南29条西12丁目)で開かれる。同大会は北海道NIE推進協議会とNIE研究会の共催。

午後1時40分から公開授業があり、同小の月澤康宏教諭、林杏子教諭がそれぞれ6年の総合学習の授業を、山鼻中の弘中祐教諭が3年の選択社会

新潟県では、地元の新潟日報社や県NIE推進協議会がバックアップして教員養成の大学や学部でNIE講座を常設しているほか、県教委、新潟市教委と協力し、初任者教員研修でもNIE講座を実施しており、NIEの普及に少ずつ効果を上げている。この取り組みを同社から報告してもらった。

新潟日報社



4月に開講した新潟大養護教諭特別科で、講師の説明を聞きながら紙面を読む学生たち

編集後記

○…わがまち新聞コンクールの審査結果を掲載するため、今号は発行を若干遅らせた。北海道の3年連続全国一は素晴らしい。作品の応募を呼びかけ、内心期待していただけにホッとしました。

○…全道的な手作り新聞コンクールは「小学生グランプリ」「中学生かべ新聞」がある。ともに応募作品が多く、レベルも高い。大賞、準大賞に選ばれるのは、だいたい常連校だ。

○…わがまち新聞コンクールはまだ3回目、道内の小中高校であまり知られていない。PRを兼ねて、各常連校に「道内での実力は評価されているのだから、今度は全国NO1を目指しませんか」と声をかけまくった。

○…応じてくれたのが白糠町庶路中である。2年連続で中学かべ新聞の大賞を受賞している。来年も各常連校に応募を呼びかけたい。ひょっとしたら「4年連続」が実現するかもしれない。(小)

の授業を見せる。実践発表では、旭川市大有小の駒津和康教諭、札幌市定山溪中の安孫子和典教諭、岩見沢市医師会付属看護高等専修学校の清藤眞智子講師がそれぞれ報告する。

参加申し込み、問い合わせは同研究会の豊島義明・事務局長(札幌市羊丘中教頭、☎011・851・9352)または当協議会事務局へ。